

鮫島有美子 Yumiko Samejima



東京都生まれ。東京芸術大学声楽科、同大学院修了。
 1975年、二期会オペラ「オテロ」デズデモーナ役で主役デビュー。
 ベルリン芸術大学声楽科卒業。ドイツを拠点にヨーロッパ各地での演奏活動を始める。
 1981年、ドイツ・ウルム歌劇場の専属歌手となる。
 1985年、初めてのアルバム「日本のうた」をリリース。以来、様々なジャンルの歌の数々をレコーディング。1990年、日本ゴールドディスク大賞を受賞。NHK紅白歌合戦にドイツより生中継で「菩提樹」を歌唱。
 1992年～2008年 オペラ「夕鶴」の“つう”を演じる。1999年、新国立劇場でのオペラ「罪と罰」初演。1995年、シェイクスピア「オセロー」で、栗山民也演出のもと、初のストレートプレイに挑戦。平幹二郎、村井国男と共演。
 2015年以降、上皇后陛下美智子さまの3作品を録音。
 2022年CD「ひばりさんへのオマージュ」が日本コロムビアより発売。
 著書「歌の翼に」「プラタナスの木陰で」 訳書「伴奏の芸術」
 様々な音楽大学でのマイスタークラスで指導。市民大学などで講義も行う。二期会会員。
 透き通るような歌声と深い表現力は、聴く者の心に深い感動を与える。
 日本を代表する声楽家として、歌曲の普及や平和への活動にも尽力している。

ピアノ 田中 明子 Akiko Tanaka



武蔵野音楽大学ピアノ科卒業。現在アンサンブルピアニストとして数多くのコンサートやコンクールにて国内外で活躍。色彩ある音と生きたリズム感を持ち、感性豊かなピアニストとして共演者からの信頼が厚い。
 合唱ピアニストとしては海外の演奏旅行に度々同行。教材用の録画&録音多数。また自ら企画・主催する「Akiko & Company's GALA」コンサートは多彩なプログラムと独自の演奏スタイルで過去5回開催され、いずれも好評を博している。
 女声合唱団「コーロ・パルピタンテ」を主宰。国際芸術連盟優秀伴奏者賞受賞。田園調布学園講師。

表紙：大橋純子『saudade サウダージ』

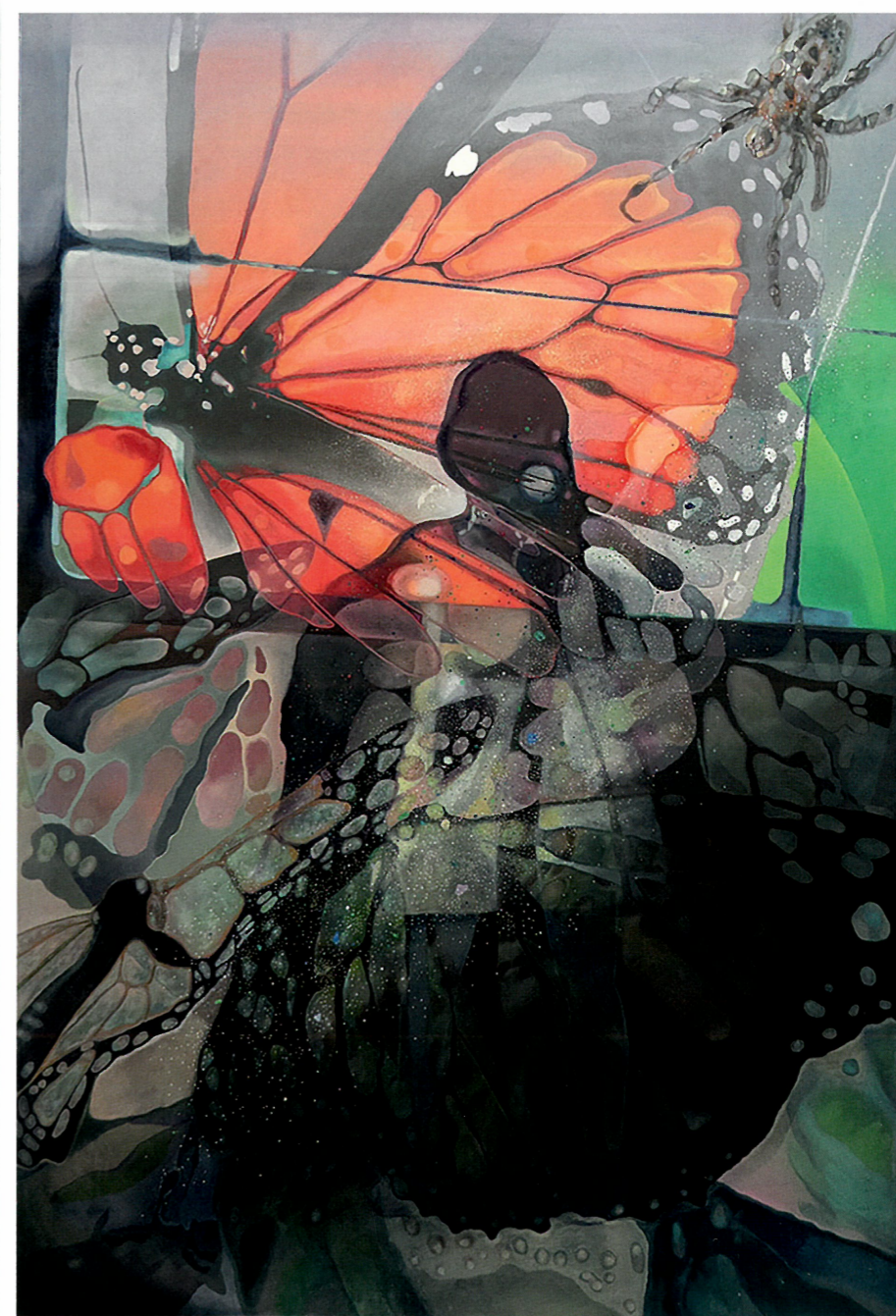
三軌会会員・評議員 栃木県美術家協会会員
都知事賞、文部大臣賞など数々の賞を受賞

主催：「平和と愛の祈り」コンサート制作委員会

鮫島有美子 歌とお話の夕べ

Yumiko Samejima

「平和と愛の祈り」



2026 4/23 〔木〕 開演18:30 サントリーホール
(17:30開場) 小ホール「ブルーローズ」

歌が祈りとなり、愛が明日の平和を創る

今、世界では「平和」への願いがかつてないほど切実に響いています。時代や国境を超えて愛されてきた歌の中にある、普遍的な「愛」と「安らぎ」。

戦後の焦土から生まれた希望の調べ、故郷を想う切ない子守歌、そして人生の哀歓を包み込む慈愛の歌……。

一曲一曲に込められた平和への祈りを、歌声とピアノの調べに乗せてお届けいたします。このひとときが、皆様の心に温かな「ともしび」を灯し、明日の平和へとつながる小さな一歩となれば幸いです。心を込めて

鮫島有美子

第1部 一本の鉛筆（作詞：松山善三 / 作曲：佐藤勝）

一本の鉛筆があれば「戦争はいやだ」と書くと、美空ひばりが魂を込めて、第1回と第15回の広島平和音楽祭で歌いました。シンプルな言葉の強さが平和を訴えます。

花の街（作詞：江間章子 / 作曲：團伊玖磨）

大空襲で焼け野原になった東京の街を目にして、あえて夢のような詩を書き、廃墟の中から湧き上がる平和への願いを、透明な美しさで歌い上げています。

花嫁人形（作詞：落谷虹児 / 作曲：杉山長谷夫）

金糸銀糸で飾られた花嫁人形の絢爛さの裏に、嫁ぐ娘の哀しみと母の切なさを忍ばせ、大正ロマンの薫りが漂います。南安雄の編曲が美しい。

菩提樹（作詞：W.ミュラー / 作曲：F.シューベルト）

シューベルトの歌曲集「冬の旅」の中で、旅人は城門の外の菩提樹に甘い記憶を刻む。もう戻れない温もりの先にあるのは死なのだろうか。ドイツでは、ドイツ民謡だと思っている人たちも多いほど親しまれています。

死んだ男の残したものは（作詞：谷川俊太郎 / 作曲：武満徹）

戦争で命を落とした一人の男が残したものを淡々と列挙しながら、最後に「平和ひとつ」すら残せなかった虚しさが突きつけられます。谷川と武満のコンビが結晶させた、ベトナム戦争時代の反戦歌。

ダニーボーイ（アイルランド民謡）

ロンドンデリーの調べに乗せて、息子の出征と再会への祈り、そして死別すら超える愛が歌い上げられます。アイルランドの魂そのものといえる別れと望郷の歌。

さとうきび畑（作詞・作曲：寺島尚彦）

沖縄のさとうきび畑は、風に吹かれると、本当に「ざわわ」という音がします。戦没者の霊を感じながら「ざわわ」というリフレインとともに、静かに平和への思いが語られます。

第2部

Always（作詞・作曲：I.バーリン）

「ホワイト・クリスマス」でも有名なバーリンが、妻エルスへの変わらない愛を誓って贈った曲。流麗なメロディは、誰の心にも染み渡ります。

魅惑の宵（作詞：O.ハマーstein2世 / 作曲：R.ロジャース）

第二次世界大戦中、南の島ではアメリカ兵と島の娘たちの間には愛が生まれます。ロジャース&ハマーsteinの豊潤なロマンティシズムが凝縮された一曲。

サウンド・オブ・ミュージックのテーマ曲～エーデルワイス

（作詞：O.ハマーstein2世 / 作曲：R.ロジャース）

ミュージカル映画といえば、まず「サウンド・オブ・ミュージック」を思い浮かべる人も多いでしょう。トラップ大佐が故国オーストリアへの愛と別れを静かに歌い上げます。山や高原に咲く白い小さなエーデルワイスはオーストリアの国花です。

ウクライナの子守歌（ウクライナ民謡）

ウクライナの戦争が始まった頃、母が我が子に語りかける柔らかな旋律をネットで耳にして、一節だけ自分で訳してみました。

ともしび（ロシア民謡）

遠く離れた愛する人を想い、窓辺の灯りに語りかけるロシア民謡で、素朴な旋律の中に待つ者の孤独と祈りが、哀愁を帯びて歌われます。日本ではその昔「歌声喫茶」でよく聞かれました。

ひまわり（作曲：H.マンシーニ）

戦争に引き裂かれた男女の悲恋を描いたイタリア映画の主題曲。ウクライナの大平原に広がるひまわり畑の映像と相まって、喪失と追憶の切なさを永遠に刻み込んだ、映画音楽史上屈指の名曲です。

リリー・マルレーン（作詞：H.ライブ / 作曲：N.シュルツェ）

第二次世界大戦中に、敵味方を問わず兵士たちに愛された歌です。営門の灯りの下で恋人を待つ女性を歌った哀愁と郷愁が、戦争という極限の悲しみを浮かび上がらせませす。

愛燦燦（作詞・作曲：小椋佳）

美空ひばりが1986年に歌った晩年の名曲で、伝説の東京ドームでの「不死鳥コンサート」の最後の曲です。人生の哀歓をしみじみと受け止める達観と慈愛が、澄み切った旋律に乗せて歌われます。